

ニュースリリース

2000年10月17日

企業間 EDI 向けに全銀ソリューションを強化 従来の専用線からイントラネットへの移行を容易にする EDI サーバーソフトなど 3 製品を新発売！

通信ソフトの開発メーカーである株式会社インターコム（〒110-8654 東京都台東区北上野 1-10-14 住友上野ビル 5 号館、TEL：03-3842-6011、資本金 7,500 万円、高橋啓介社長）はこのほど、企業間(B to B)電子商取引システムにおいて、従来から利用されている全銀協手順（旧手順）と、この方式をイントラネット上でも利用できるように改良した全銀 TCP/IP 手順（新手順）の、両通信方式に対応した Windows ベースのメッセージ EDI 向けサーバーソフト「商品名：Biware 全銀 TCP サーバー Ver.3」を開発、10 月 18 日より発売します。また同時にユーザーが簡単に B to B のファイル オンライン交換をできるようにした、2 種類のパソコン用 EDI 向けクライアント ソフトも同日より発売します。

全国銀行協会連合会（全銀協）により制定された従来の全銀協手順と、その方式をそのままアプリケーションを変更せずにイントラネット上でも利用できるように改良した新しい全銀 TCP/IP 手順は、金融業界のみならず国内のあらゆる業界/業種においてメッセージ EDI のスタンダードな通信方式として広く利用されています。旧手順の全銀協手順は、今日では広く普及していますが、一般電話回線や同期モデムが使われているために通信速度が遅く、また通信機器も高価になります。そのため、最近では高速な通信ができ、安価な非同期モデムやイントラネット環境でも使え、また旧手順の全銀協手順をベースにして開発されている既存のユーザー アプリケーション（適用業務）プログラムをほとんど変更することなく使用可能な全銀 TCP/IP 手順（新手順）の普及が進んできています。

今回、インターコムが開発した「Biware 全銀 TCP サーバー Ver.3」は、新旧両手順の機能を統合し、データ配信のスケジュール管理、通信履歴、配信データのリレー機能、ホストコンピュータに対する端末制御、クライアントに対するホスト制御などのサーバー機能を強化/追加した商品で、下記のような特徴があります。

- クライアント（端末）／サーバー間は、高速で安価なイントラネットまたは従来の電話回線のどちらでも使用できるようになります。
- サーバー／ホスト（メインフレーム）間は、LAN や高速なイントラネットまたは従来の電話回線のどちらでも使用できるようになります。また、電話回線を使用する場合は、ホスト側のアプリケーションを変更する必要がありません。
- スケジュール管理機能により、ランニングコストが安い夜間を利用して、ホストへ自動的にデータ配信ができます。
- 16 回線までのイントラネットまたは電話回線を同時に制御することができます。

この他、今回は上記サーバーソフト商品に加えて、Windows のエクスプローラ ライクなドラッグ アンド ドロップ操作により、簡単に B to B のファイル オンライン交換を可能にする EDI アプリケーションを標準搭載した「商品名 : Biware 全銀クライアント」(全銀協手順)と「商品名 : Biware 全銀 TCP クライアント」(全銀協手順、全銀 T C P / I P 手順)を同時に発売いたします。

販売スケジュール

- 製品名 : Biware 全銀TCPサーバー Ver.3
対応パソコン : DOS/Vパソコン
対応OS : Windows NT Server 4.0、Windows 2000 Server
価格 : 50万円
初年度販売目標 : 1,000本
- 製品名 : **Biware 全銀クライアント (EDIアプリケーション標準搭載)**
対応パソコン : DOS/Vパソコン、PC98-NXシリーズ、PC-9821シリーズ
対応OS : Windows 95/98/Me、Windows NT 4.0、Windows 2000
価格 : 14万8,000円～ (専用ハードウェア付き)
初年度販売目標 : 10,000本
- 製品名 : **Biware 全銀TCPクライアント (EDIアプリケーション標準搭載)**
対応パソコン : DOS/Vパソコン、PC98-NXシリーズ、PC-9821シリーズ
対応OS : Windows 95/98/Me、Windows NT 4.0、Windows 2000
価格 : 6万円
初年度販売目標 : 10,000本
販売方法 : (株) インターコムの子会社である (株) インターソフトより全国販売
-